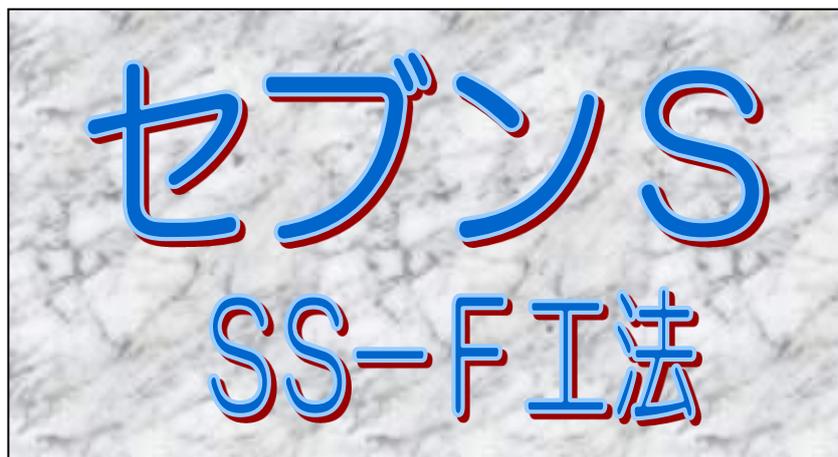


タイル面及び目地の保護剤の施工



## 施工要領書

意匠性を活かしたタイル敷き  
ベランダ、共通廊下など床面

## 下地処理

### □ 下地ごしらえ

- ① タイルの剥離部、浮き箇所、ひび割れ箇所は、事前に張り替え又は、エポキシ注入・シーリング材充填などの補修をする。
- ② 深目地の場合、目地底入り隅、タイル木口へ刷毛で丁寧に各工程塗り付け十分に造膜をさせる。または、浅目地に埋め戻し、十分に目地モルタルを乾燥後施工して下さい。
- ③ シーリング材打ち替え後、シーリング材の上へは養生するか、見切り、塗装は避けてください。  
やむを得ず塗装する場合、現在まで不具合の少ない2成分型アクリルウレタンを薦めております。  
PCa部材、ALCパネル、押し出し成形版では、2成分型アクリルウレタンシーリング材上に塗った後に不具合報告が有りましたので、塗装は避け、「セブンス」塗装後に変成シリコンNBタイプでの打ち替えを薦めております。

(ガラスブロック面などへのご注意)

シリコンシーリング材を打ち込まれている場合は、その上に塗装は出来ません。 ガラスブロック面や、目地モルタルへのシリコンシーリングによる汚染を十分にクリーニングし、 付着阻害の無いようにしてから塗装して下さい。 「セブンス」を塗装する場合には、ポリイソブチレン系シーリング材に打ち替え、ご利用下さい。
--

- ④ ポリサルファイドシーリング材、変性シリコンシーリング材の場合、シーリング材の上へは養生し、「セブンス」を塗らないようにする。やむ得ずシーリング材の上に施工する場合は、次善に策としてしみ止めプライマー、セブンファンデクリヤー I を施工前日までにシーリング材上へ、刷毛や、筆で塗り付けておく。
- ⑤ 入り隅部へは、2成分型アクリルウレタンを三角に打ち、面取りしてから施工すると防水効果が上がります。
- ⑥ シーリング材用プライマーやエポキシ注入材が、タイル表面に付着した箇所に経時後見苦しい黄変むらとなるので、表面に残らぬよう処理しておく。
- ⑦ ワックスや油脂などがタイル面に付着している場合は、洗剤を使用し、十分水洗いを行うか、研磨紙ずり及び、シンナー拭き等により、除去する。
- ⑧ 目地部、ひび割れ部などからの白華物(エフロレッセンス)は、硬質ブラシやスクレーパー、ヘラなどで、できるだけ除去し、弱酸性液(希塩酸、しゅう酸等)で洗浄除去後、十分水洗乾燥する。  
尚、酸で目地モルタル、タイル裏面モルタル、及びその他のセメントモルタル、コンクリート面の劣化、強度低下を生じさせないよう、水洗い除去を充分行うなどして注意して施工する。
- ⑨ タイル表面のテープ等は糊残りのないよう十分に除去し表面を乾燥させる。
- ⑩ かびや藻などの微生物汚染を生じている場合は、カビ取り材、アルコール液で殺菌処理する。
- ⑪ 塵埃や付着物などの汚染物は、セブンドオ等を用い、汚れを除去した後、十分に高圧水洗浄する。
- ⑫ 水洗後のタイル面を十分乾燥する。

セブンス (S-F工法) の施工

□ セブンス (S-F工法) の塗り工程

工 程	使用材料	希 積 (重量%)	塗付け量 (Kg/m <sup>2</sup> )	工程時間 (時間)	施 工 方 法
1 下塗り	セブンスシーラー又は セブンスネオシーラー	無希積	0.15 ～0.2	3以上 24以内	中毛ローラー
2 主材塗り(1)	セブンスS	水 (1～5)	0.3 ～0.5	3以上 168以内	ゴムゴテ
3 主材塗り(2)				16以上 168以内	ゴムゴテ又は、 中毛ウールローラー
4 上塗り (半艶、艶有)	セブンスFトップM # 30 (セブンスFトップ骨材の みを11:1:0.5比率で十 分に攪拌る。)	無希積	0.12 ～0.15	2以上 8以内	中毛ローラー
5 上塗り (半艶、艶有)				24以上 (最終養生)	

☆ ◎下地がALCパネル、押し出し成形版、及び斜壁部への中塗りは、1kg/m<sup>2</sup>を基準にして下さい。  
陶器質や無釉薬タイル、擬石調やレンガ等、吸水性の高い素地の場合、シーラーは乾燥後2回目を  
追いかけて塗りし濡れ色を均一にしてください。

☆ シーラー塗布後、目地モルタルの吸い込みの大きい部分は、乾燥後、当日中に追いかけて増し塗りし、  
目地モルタルを均一に濡れ色にしてください。

1) セブンス(中塗り)2回で最低0.6kg/m<sup>2</sup>塗り切れれない場合、塗りきるまで重ね塗りして下さい。  
タイルが接地面から張られている場合、接地面から10cm程、塗装は避けて下さい。  
セブンス塗装では、塗装しない取り合い側からの浸水による不具合が無きようにして下さい。

3) セブンスS中塗りは、ローラーの運びをゆっくり配り塗りすると、気泡を含みづらくなります。一度に腕を伸ばし  
しごき塗りすると、造膜不均一や造膜不足、気泡が入り易く、塗膜の白ぼけを発生する場合があります。

4) セブンスSトップは、1回目塗装後表面が乾燥しましたら、指触確認し、追いかけて2回目を塗装して下さい。  
(2回目を翌日塗付すると、リフティングする場合があります。)

5) タイル面が指触で暑い場合、セブンスS中塗り塗付時の乾きが早くなり、不具合を発生し易くなりますので、  
注意して下さい。

・セブンスS中塗りは、1～水道水5% (140cc～700cc) 程を加え、混練棒にて気泡が入らぬようにの字を  
書くように攪拌し、塗膜表面乾燥を遅らせる。

・セブンスS中塗りを縦・横目地モルタルに沿い、狭い面積ずつ塗り継ぎ、糸引きや、ローラー運びが早くなつた  
ら塗装を止め、塗膜の乾燥硬化後に塗り増しして下さい。

・セブンスS中塗りは表面が皮張り、糸引きが始まってから、ローラーを運ぶと、塗膜表面を荒らし、気泡混入  
させ、仕上面を悪くし、塗膜白ぼけの要因となります。

# セブンス (SS-F工法) 施工要領

セブンストップM#30に別売の骨材を投入する工法です。

## ●はじめに

セブンスシリーズは、透明仕上げの為、汚れたローラー、ハンドル等の道具は使用しないこと。

### 1) 下塗り

- ① 下地調整が十分行われていることを確認後、下塗り工程を行う。
- ② セブンスシーラーは、基剤／硬化剤を 13／1（重量比）とし無希釈で、ハンドミキサー等で均一に混合する。
- ③ 中毛ウールローラー又は、スプレー塗りにより、塗り残し、塗り継ぎの生じないよう均一に所定量塗り付ける。（下地、タイルの状態により塗布量が異なる場合があります。）

### 2) 主材塗り

- ① 下塗りの乾燥後主材塗りする。 ※指触で確認する。
- ② セブンスSS(主材)を、ゴムゴテにてタイル面を流し塗りを行う。軟らかくタイル面をしごきながら、均一に塗布する。
- ③ セブンスSS 1回塗り面の乾燥硬化(通常3時間以上)後、透明になってから、2回目のセブンスSSをゴムゴテ又は、中毛ウールローラーを用いて、2回目を均一に塗布し、仕上げる。
- ④ 2回のセブンスSS(主材)塗りを中毛ウールローラーで仕上げると、ローラー目が大きく残るので、1回目はゴムゴテで行う。（所定量を塗り付ける迄何回でも塗る。）

### 3) 上塗り

- ① セブンス(主材)塗りを指触で乾燥硬化確認後(16時間以上)、上塗り工程を行う。
- ② セブンストップM#30は、基剤／硬化剤 を 11／1(重量比)とし、  
別売のセブンス-Fトップ骨材のみを重量比0.5として、主剤、硬化剤、骨材を施工面積に合わせ計量し、投入してください。  
その後、ハンドミキサー等を使用して均一に混合する。上塗材の半艶・艶消しは、艶消材が分離状態になっている場合もあります。  
缶の底部まで充分、攪拌、混合してからご利用下さい。  
少量使用の場合は、セブンストップMM#30 3Kgセット及び、骨材のみ0.125kgをご利用ください。
- ③ 中毛ウールローラーにより、塗り残し、塗り継ぎの生じないよう均一に塗り付ける。  
なお、骨材が沈降し易いので、骨材がムラにならぬよう、攪拌を頻繁にし、塗り付けて下さい。
- ④ セブンストップM#30プラス骨材塗を終了後、指触乾燥を乾燥後(通常2時間以上)、2回目のセブンストップM#30プラス骨材を中毛ウールローラーを用いて、1回目同様に骨材が沈降しないよう、攪拌を頻繁にし、仕上げる。（当日2回塗して下さい。）

## 施工全般における注意事項

### 1. 気象条件

- (1) 気温変動での注意  
低温(5℃以下)の場合、樹脂の乾燥硬化に支障をきたす場合があるため施工を避けてください。  
高温(気温35℃以上、躯体温度30℃以上)、及び湿度85%RH以上の場合、塗膜乾燥、ローラー作業性及び仕上性に支障をきたす場合がありますので十分注意してください。
- (2) 降雨・降雪の恐れがあるときは、施工を避ける。  
水性セブンスシーラー I 及び、中塗りセブンスSS、水性セブンスストップ施工後一度透明になっても、降雨が当たると吸水し塗膜の白濁、透明乾燥を繰り返す場合があります。冬場から春先に掛け、降雨の心配な場合には予め、軒養生などをして頂くことをお勧めします。
- (3) 風速5m/sec以上のときは、塗材の飛散被害・塗付けムラ等の支障をきたすので、十分風養生対策を行うか施工を避けてください。
- (4) 塗付け途中、又は乾燥途中に急に雨が降ってきたときは、少なくとも塗膜が乾燥するまで、天幕などで覆って流出しないようにする。

### 2. 下地ごしらえ

- (1) タイル仕上面又はコンクリート面に、不良箇所があれば、事前に十分に補修を行ってください。
- (2) タイル目地を注入材やシーリング材等で補修してある場合は、目地の色が不均一となるので、予め管理者に了解を得てください。

### 3. 塗装の注意

- (1) セブンスシーラーや、セブンスネオシーラーを塗装すると、目地が濡れ色で濃くなるので、予め、発注者に承認を受けるようにして下さい。  
又、濡れ色で濃い部分と、目地モルタル色のむらに仕上がった場合は、目地の劣化が進行している場合が考えられるので、セブンスシーラーを再度塗装し、濡れ色を均一にして下さい。
- (2) セブンスSS(主材)に清水を入れ攪拌する場合、高速回転の機械を使用すると気泡が混入して抜けませんので低速ハンドミキサー又は攪拌棒で気泡を混入させないよう静かに攪拌してください。
- (3) タイル目地や、タイルにひび割れが発生している場合は、セブンスシーラー塗装後、セブンスSS(中塗り)をひび割れ部に、ハケ又は、ゴムべら等で増塗りを行い、乾燥後主材塗り工程を行う。
- (4) 各工程の塗材塗装後すぐに塗面を養生シート等で密閉すると、養生シートと塗膜が接着し剥がれなくなることがあるので、養生シート等で密閉しないように注意する。  
(逆養生が不要となる手順を考える。)
- (5) セブンスシーラー、セブンスネオシーラー、セブンスストップM#30は溶剤系ですので、臭気等を発生させるため近隣周囲への配慮を十分注意し、施工する。  
居室内で使用する場合、塗料扱い時、塗装時には、通気・換気を十分に行ってください。

### 4. その他(保管等)

- (1) 水性セブンスシーラー I、セブンスSS、水性セブンスストップは、5℃以上の場所で保管する。
- (2) 3. 塗装の注意 及び SDSを確認してください。
- (3) 居室等、内装で使う場合、塗料扱い時、塗装時には換気・通気に十分注意してください。
- (4) 材料は、風雨・直射日光を避け、必ず冷暗所で保管してください。

## 使用材料一覧表

□ 荷 姿

製 品 名	容 量	荷 姿	備 考
セブンSシーラー 2液型アクリルシリコン樹脂 (強溶剤 標準型)	14Kgセット	石油缶	基剤:硬化剤 13:1
	4Kgセット	石油缶	基剤:硬化剤 3.72:0.28
セブンSネオシーラー 2液型アクリルシリコン樹脂 (弱溶剤 耐水白化強化タイプ)	12.5Kgセット	石油缶	基剤:硬化剤 11:1.5
	3.13Kgセット	石油缶	基剤:硬化剤 2.75:0.38
セブンSS 特殊アクリルシリコン樹脂エマルジョン	14Kg 4Kg	石油缶	アクリルシリコン樹脂 中塗り
セブンストップM#30 艶有・半艶・艶消 弱溶剤 2液型アクリルシリコン樹脂	12Kgセット	石油缶	基剤:硬化剤 11:1
	3Kgセット	石油缶	基剤:硬化剤 2.75:0.25
セブンストップ骨材のみ	0.5kg 0.125kg	ポリ缶	比率(基剤/硬化剤/骨材) 11:1:0.5
セブンストップM#30 シンナー	16L 4L	石油缶	希釈用シンナー
セブנקリーナー	4L	ポリ容器	洗浄剤
セブンファンデクリヤー I	1Kg	角缶	シーリング材滲み止め プライマー

 **株式会社セブンケミカル**

東京都新宿区西新宿7-8-13 栗原ビル  
TEL 03(3366)2616 FAX 03(3366)2619  
e-mail kimura@seven-chemical.co.jp  
e-mail kitajima@seven-chemical.co.jp